

保育者養成学生の振り返りと保育の連続性の理解について

—国公立幼稚園における公開保育及び研究協議への参加を通じたモデリング学習—

上 村 裕 樹・阿 部 好 恵

(帯広大谷短期大学 社会福祉科)

要旨

本研究では、国公立幼稚園の公開保育および研究協議への参加を通し、学生がどのように学習したか、自由記述での学びに関する回答を分析した。分析の方法は、質的分析の手法である構造化を行った。その結果、公開保育での学びに関して、レコード数163、第一カテゴリー数10、研究協議での学びに関して、レコード数112、第一カテゴリー数9が抽出された。これらのことより、公開保育への参加と研究協議への参加というモデリング学習のねらいは、概ね達成されたと考える。しかし、参加という「見る」行為を通じた学習のみでは、学生の学びが十分な形で深まらない様子が見受けられたため、学生の学びの構造を把握し、「見る」ことを通じた学びに関して、言語化する振り返りの場を設ける必要があることが考えられた。

キーワード

公開保育, 指導計画, 保育の連続性, モデリング学習, 振り返り

I はじめに

幼稚園教育（以下、保育）は、幼稚園教育要領¹⁾において、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼児期の特性を踏まえ、環境を通し

て行うものであることを基本とし、幼児と共によりよい教育環境を想像するように努めるものとすることが明記されている。これにより、教師（以下、保育者）には、幼児の主体的な活動が確保され、一人ひとりの行動の理解と予想に基づいた計画的な物的環境と空間的環境を構成していくことが求められる。

幼稚園は、子どもの生きる力の基礎を育成するよう家庭との連携を図りながら子どもの現在の姿を理解し、向き合い、子どもが主体的に環境と関わることが可能となるよう、環境を構成していくことが求められる。様々な経験を通し、発達していく子どもには、当然のことながら、今現在より前の姿があり、その姿を基にして今の子どもの発達段階とその姿が存在しうる。そのため、子どもの活動を連続したものと捉え、発達の連続性を踏まえつつ、今の子どもの発達に即して環境への働きかけを行うことが保育において重要となる。

しかしながら、養成段階にある学生の実習における振り返りの際には、一部分の場面や活動を切り取った形で振り返りが行われることが多く、その場面や活動が、どのような流れの中で、どのような意味を持ち、どのような効果と影響を与えるのかという点までの一連の連続した流れとして振り返りを行われることは非常に少ない。つまり、保育活動を行うにあたり、見通しを持って関連した活動として計画を立案し、子どもにとって連続した活動として、その効果と影響を考えながらデザインされた活動として、保育の場面を捉えることができていないと言える。

筆者らはこれまで、保育実習および教育実習の指導において、学生の振り返りの手法として、ワー

平成28年11月10日受理
連絡先 〒080-0335北海道河東郡音更町希望が丘3-3
帯広大谷短期大学 社会福祉科
TEL 0155(42)4444 FAX 0155(42)4499
Email uemura@oojc.ac.jp

ルド・カフェ²⁾やオープンスペース³⁾、ダイアログ⁴⁾、PBL⁵⁾を実践してきた。その中で、学生全員が保育を捉えるにあたって、保育場面を連続したものと捉え、今の活動を通して明日からの保育活動をどのように変化させることができるのか、また、生かしていくのかという生活全体の流れの中で子どもの活動や経験を予測するのではなく、多くの学生達は、今行われている活動を一つの独立した活動の機会として捉えてしまっている様子が多くみられていた。

学生達は、授業を通して、保育の連続性や、教育課程と保育課程の重要性を学んでおり、発達を見通した、保育の重要性について学んでいる。しかし、実際に自らの実習を通した体験に関しては、目の前の出来事や場面にばかり目が向いてしまい、その活動が、園生活全体の上で、どれだけの意味を持つ活動であるのかという意識や、どのように明日からの様々な活動へとつなげていくかという視点が、多くの学生達に養われているとは言い難い状況にある。このことは、教育課程において目指している、子どもの生涯にわたり生きるための力の基礎の育成に向け組み立てられる計画の連続性について、実践との往還的な関係性の理解が不足しているためであると考えられる。

現在の保育の活動を組み立てるだけでなく、計画を見直し、活動と計画を見直し、環境を構築していくといった、子どもを目の前にした保育者が行わなくてはならない、子どもの発達と姿を十分に理解し、踏まえた上での環境の構築という保育に必要不可欠な視点での振り返りが十分に行うことができていない。このことは、保育者として保育を実際に進めていく上で必ず解決していかなくてはならない課題であるため、そのような視点を養成段階の学生に対して、いかにして養うことができるかということを書者らは問題意識としてきた。

養成校が行う実習前教育に関する研究では、学生にイメージさせ実践を捉えようとする授業展開の困難さ⁶⁾や、実習経験の少ない段階の学生にとって模擬保育のみの経験をもとに、質の高い指導計画案を立案することの難しさ⁷⁾が示されている。

子どもが自分自身の活動を通して、有能な子どもや背伸びする子どもであることを実感し、自らに誇

りを持つようになるためには、子どもの自発性と保育者の計画性が相互主体的に関わる必要がある⁸⁾と指摘されている。このように、子どもの活動が主体的に構築されていくためには、保育者の計画に基づき構成された環境の下で、保育が展開される必要がある。そのためには、保育者が子どもの姿と向き合い、現在の活動が次の子どもの活動へと繋がり、遊びを通した経験の蓄積により、子どもの発達が促されることを理解した上で、指導計画を立案する必要がある。そして、指導計画の立案においては、子どもの生涯に渡る生きる力の育成に向け、理念や方針、目的、目標との繋がりを強く意識し、保育者の願いや思い、配慮を組み込む必要がある。子どもの姿と自発性、そして、保育者の計画性が相互に主体的に関わりあうことで質の高い保育が担保されることとなる。

そこで、本研究では、保育者が子どもの生きる力の基礎の育成のため、子どもの自発性や主体性が十分発揮することができるよう立案する計画と、その計画に基づく活動を通して、子どもの発達を願っているということについて、学生が理解できるよう、体験的な学習の機会として、全道国公立幼稚園・子ども園教育研究大会における公開保育、保育反省と協議の場へ学生の参加を促した。

公開保育は、保育実践場面を保育者や実習生といった保育場面に関わる当事者としてではなく、直接的にみることができるとは限らず、より冷静に、かつ客観的に見ることができるようになり、発達段階に応じた配慮や主体的な活動に促す配慮にまで気を配る必要性に気がつく余裕が生まれる⁹⁾といった効果が期待できる。そして、分科会（以下、研究協議）は、保育反省と研究協議を行う場面であり、参加する保育者の互いの見方を交流し、他者の見方を知って自己の見方を省察する機会となる。また、そうした見方には、保育者の専門的知識や経験的知識、実践、学習に対する信念等が反映されることとなり、自らの暗黙の前提を問い直し、多様な見方や包括的な見方を身につける機会¹⁰⁾となる。

このような様々な経験や体験により得られる学習は、モデリング学習¹¹⁾と呼ばれ、特に専門的スキルの習得においては効果的な学習手法である。

一般的に熟達者はどのような状況においても適切

かつ迅速な行動が可能であり、経験したことの無い事態や想定外の状況への対処が可能である。これは知識や経験から行動モデルが構築されているためであり、熟達者はこのモデルを作り上げるための能力を獲得¹²⁾している。非熟達者はこれらを身につけるためにも、熟達者の行動を模倣し、分析し、判断し、知識や経験として獲得していくといったプロセスが専門的スキル習得においては、必要な学習方法となる。このような観点から、公開保育への参加や保育反省と研究協議への参加は、保育の熟達者である保育者の計画と実践、振り返りまでを連続した形で体験的に、客観的立場から学ぶことができる機会であり、学生にとって貴重な学びの機会となるとともに、保育を連続した活動として捉え、保育者が子どもに対して行う保育活動に含まれる願いや思い、配慮を知ることができると考えた。

以下では、こうした公開保育と研究協議への参加を通して、学生の学びがどのように深まり、振り返りの中で示されたのか、明らかにしていきたい。

II 方法

1. 対象

A短期大学、保育士養成課程および幼稚園教諭養成課程に在籍する2年生49名を対象とした。

2. 日時

平成28年7月27日に、全道国公立幼稚園・子ども園教育研究大会における公開保育と研究協議が、3園（M町立幼稚園、U町立幼稚園、S町立幼稚園）において実施され、対象学生が参加した。

3. 手続き

対象学生は、M町立幼稚園16名、U町立幼稚園14名、S町立幼稚園20名のグループにわかれ、それぞれのグループに対して1名のA短期大学教員が引率者として、公開保育および研究協議へと参加した。

グループの決定にあたっては、概ね人数を均等な人数としたいことをあらかじめ伝えていたが、実習施設や就職希望の状況、公開保育開始時間等の関係から、学生の希望により、見学園のグループ編成を行った。教員は、特に園の指定や希望する園の異動

に関しての指示はしておらず、学生の希望のみで決定した。園への移動については、大会主催にて運行するバスに乗り現地へ移動した。

学生には、当日の保育の計画と週の活動を含む計画が配布され、前日までの子どもの様子なども含まれており、公開保育の各園における位置づけやその活動をどのように次の活動へと生かしていくかなどの連続した保育の活動として、理解を促すための資料となっていた。それを基に、公開保育の見学と研究協議への参加を行った。

見学園3園のテーマと研究主題、学生のグループ人数は、それぞれ以下の通りであった。

1) M町立幼稚園

テーマは「心と体の育ち」研究主題は、「友達と環境を共有し、からだを動かすことを喜びながら、遊びを楽しめる子ども；－身近な環境の中で、心と体を動かすことを喜び合えるための保育者の役割－」であった。学生のグループ人数は、15名であった。

2) U町立幼稚園

テーマは「心と体の育ち」研究主題は、「活動の楽しさを十分味わいながら幼児の心とからだの育ちを考える保育者の役割；－様々な体験を通した心とからだの育ち－」であった。学生のグループ人数は、14名であった。

3) S町立幼稚園

テーマは「家庭・地域社会との連携」研究主題は、「人々との関わりに充実感を感じながら活動に参加して、遊びを広げたり持続させたりすることができる園児の育成；－交流活動と、年齢に応じた活動の内容の工夫－」であった。学生のグループ人数は、20名であった。

4. 分析手法

7月28日の実習指導において、学生の公開保育と研究協議参加に対する振り返りとして、「公開保育参加での学び」と「研究協議参加での学び」について、質問紙を学生へ配布し、自らの学びについて、自由記述での記載を求めた。回収は参加者49名に対して48名であった（回収率97.69%）。

対象学生から得られた自由記述は、データとして入力し、KH Corderを用いテキストマイニングを実

施し、使用語彙や文節、文脈等について読み解いた。その後、内容と文意により切片化による拡散を図り、レコード化を行った。

得られたレコードに関して、質的分析による構造化の手法を用い、ラベル付けを行い、四階層（第一カテゴリーから第四カテゴリー）での入れ子構造による収束を図り、構造化を行った。

Ⅲ 結果と考察

1. 公開保育参加での学び

公開保育参加での学生の学びは、第一カテゴリーとして、「園全体に見られる子どもを第一に考え工夫された環境構成」、「のびのびと活動する子どもの現状」、「子どもの遊びの創造性」、「日常の積み重ねの大切さ」、「子どもの主体性を導く保育者の意図的な働きかけ」、「子どもの言動を尊重した支持的援助」、「保育者同士の連携の重要性」、「子ども同士のトラブルの解決に必要な保育者の技術」、「公開保育における現場を客観視したことでの学生の学び」、「批判的な捉え方や姿勢」の10の要素が示された（表1）。

これらの第一カテゴリーの下に示される第二カテゴリーは、それぞれ以下の通りであった。

「園全体に見られる子どもを第一に考え工夫された環境構成」は、「子どもの活動を考えた園舎の環境構成」、「ねらいをもって展示されている子どもの作品」、「子どもの過ごしやすさを考えたクラス的环境構成」、「通路だけでなく活動の場として工夫・活用されている廊下」、「園庭にある工夫が施され手作りされたものを含めた種類豊富な遊具」、「枠にとられない固定遊具の活用方法」、「少人数保育における一人ひとりへの細やかな援助」の7つが示された。

「のびのびと活動する子どもの現状」は、「のびのびとした子どもの姿」、「意志を感じる子どもの言動」、「異年齢の交流から垣間見える子ども相互の利点」の3つが示された。

「子どもの遊びの創造性」は、「新たな遊びを生み出し展開していく過程」、「子ども同士が協力しながら遊びを展開する姿」、「遊びを通して生まれる異年齢の交流」の3つが示された。

「日常の積み重ねの大切さ」は、「公開保育時でも持続する集中力は日頃の生活の現われ」、「子どもの力を育む積み重ねやくり返し」、「雑巾がけによる身体的発達への影響」、「園全体で取り組む雑巾がけの良さ」、「雑巾がけから派生する周囲への注意力」、「清掃の行為が楽しく習慣化されている背景にある保育者の工夫」の6つが示された。

「子どもの主体性を導く保育者の意図的な働きかけ」は、「子どもと楽しさを共有することの重要性」、「子どもの主体性を生む保育者の効果的な関わりや声かけ」、「子どもの意欲を生む保育者の効果的な関わりや環境構成」、「子どもと一緒に取り組む保育者の姿勢」、「子どもが楽しめることの背景にある保育者の工夫」、「子どもの声を発端とした遊びの展開」、「2つの遊びをつなげる展開方法」、「子どもがじっくりと遊べるようにすることの大切さ」の8つが示された。

「子どもの言動を尊重した支持的援助」は、「保育者の活動全体を把握しつつ子どもの変化を見逃さない目配りやさり気ない気配り」、「子どもの能力や主体性を見極めた必要最小限の援助」、「保育者の子どもの意見を導く問いかけと丁寧な返答」、「保育者が子どもの意見を尊重することで生み出される新しい発見」の4つが示された。

「保育者同士の連携の重要性」は、「安心・安全な遊びやスムーズな活動を可能にする保育者同士の連携」の1つが示された。

「子ども同士のトラブルの解決に必要な保育者の技術」は、「子どもたちが解決策を生み出せるように焦らず関わる保育者の技術」、「子どもの状況を見極め臨機応変に対応している保育者の柔軟性」、「トラブルの当事者だけでなく他の子どもの意見を活用した仲裁の技術」、「トラブルへの関わり方から解決後のケアまでの一連の方法」の4つが示された。

「公開保育における現場を客観視したことでの学生の学び」は、「普段と異なる公開保育の状況下における子どもや保育者の自然な様子」、「今までの実習体験との比較による園の現状認識」、「集中して客観視できる公開保育の良さ」、「自分事として現状を捉える」、「現状の認識に留まらない自身の実践とを結びつけた学び」、「保育の実際と普段の学習とを結びつけた深い理解」、「実践における指導案の重要

表1 公開保育参加での学び

第一カテゴリー (10)	第二カテゴリー (45)	第三カテゴリー (163)
園全体に見られる子どもを第一に考え工夫された環境構成	子どもの活動を考えた園舎の環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎の明るさへの驚き ・園舎全体の部屋の連続性による子どもの動きのスムーズさ ・園舎の明るさや動線の明確さによる活動の切り替えがスムーズにできる環境構成の良さ ・保育者の連携により子どもが意欲的になるよう考えられた環境構成
	ねらいをもって展示されている子どもの作品	<ul style="list-style-type: none"> ・展示物から感じる子どもの作品を大切にしたい ・子どもの作品が引き立つ展示方法や環境 ・子どもの作品を飾る工夫 ・遊戯室の温かな雰囲気を作り出す子どもたちの作品や手作りされている物品 ・子どもの作品に付いているネームの工夫点からの学び
	子どもの過ごしやすさを考えたクラスの環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限の物品と整頓された子どもが過ごしやすいくラスの環境構成 ・保育者が作り出している子どもたちが生活しやすい環境
	通路だけでなく活動の場として工夫・活用されている廊下	<ul style="list-style-type: none"> ・電車ごっこの線路が遊戯室内に留まらず廊下に続いていることの面白さ ・廊下が広いことによる遊戯場とつなげた電車ごっこができる環境の良さ ・廊下に置かれたブロックに着目した楽しく移動できるような環境構成の工夫の学び ・楽しく運動ができるよう廊下の移動にも意味を持たせている環境構成の工夫 ・廊下に置かれたブロックで移動中も楽しむ子どもから気づかされる配慮された環境構成
	園庭にある工夫が施され手作りされたものを含めた種類豊富な遊具	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での身体を使った遊びや手作り遊具の豊富さ ・ホースや塩ビ管を使用した水が流れてくる砂場遊びの面白さ ・魚釣りゲームにおける実際に店頭で使用しているトレーを活用した工夫 ・園庭に多様な遊具があることで子どもの好きな遊びができる良さ ・年長の子どもが年少の子どもに教える姿や声を掛け合って協力して遊具を調整する姿から手作り遊具の良さを見出す ・子どもたち同士で工夫できる遊具の良さを認識する ・園庭にある手作りの遊具を使って楽しそうに体を動かす子どもの姿
	枠にとらわれない固定遊具の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・固定遊具の使い方の工夫を知る ・ブランコの片方が玉入れになっている発想の面白さ
のびのびと活動する子どもの現状	少人数保育における一人ひとりへの細やかな援助	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数保育による一人ひとりへの細やかな気配り ・少人数による一人ひとりをよく見て関わる保育者の姿
	のびのびとした子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびと運動する子どもの姿 ・広い園庭の中でのびのびと遊ぶ子どもの姿 ・ダンボール滑り台や色水遊びを通じてのびのびと活動している子どもの姿 ・子どもののびのびと意欲をもって楽しそうにしていることを感じる ・屋内外で遊具や遊びを通して子どもが身体をのびのび使っていることを感じる
	意志を感じる子どもの言動	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残る主体的に遊ぶ子どもの姿 ・活動を通してやりがいを感じている子どもの様子 ・悔しくて泣いている子どもに対する子ども同士の励ましや立ち直る様子から伝わる楽しく遊ぼうとする気持ち ・バトンを持って先生ではなく子どもたちに声をかけて仲間を探すりレーがしたい女の子への注目 ・夏祭りを真似た楽しめる企画を子ども自身で考えたたくましさ ・遊びの工夫を子どもから見せてもらう ・子ども自身が作ったものを自信を持って説明する様子から感じる努力
子どもの遊びの創造性	異年齢の交流から垣間見える子ども相互の利点	<ul style="list-style-type: none"> ・普段見られない遊びや異年齢同士の関わり方を見ることができた貴重な機会 ・年下の子どもに対する年長の優しい対応や自分の役割を遂行する印象的な姿 ・行事ではなくても全ての年齢の子どもが合同で遊べる良さ ・大人を真似て年下の子どもに教える年長の子ども ・足の速い年長の子どもに憧れを抱く年中の子ども ・異年齢児の交流における年長児を真似する子どもの存在や遊びを広げあう子どもたち
	新たな遊びを生み出し展開していく過程	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊びを展開しやすくする工夫点 ・電車ごっこのために楽しそうに線路を作る子どもの様子から気づく遊びを作り出すプロセスの良さ ・初めて見る戸外遊びで子どもたちが自ら遊具を手作りする姿 ・砂場遊びで砂だけでなく水や色水等を活用することで新たな遊びが生み出せる
	子ども同士が協力しながら遊びを展開する姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが協力してサーキット遊びを作り出している印象的な姿 ・身体を動かしながら子ども同士が協力しながら遊びを展開している様子の観察
	遊びを通して生まれる異年齢の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢をこえて自主的に楽しめる子ども自作の遊具の工夫 ・遊びをつなげた展開による異年齢の交流が生まれる面白さ
公開保育時でも持続する集中力は日頃の生活の現われ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの集中力は保育者のクラス参加型の話の展開や手遊びと日頃の生活によるもの ・多くの大人がいても朝の会や遊びに集中できる現状への驚きと日頃の活動の連続性への気づき 	

日常の積み重ねの大切さ	子どもの力を育む積み重ねやくり返し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の主體的な遊びは保育者が不在でも自ら考え実行する力を育む ・ 自然と保育者と一緒に片付ける子どもの姿から日常の積み重ねや同じサイクルで行うことの重要性を学ぶ ・ 自らの力で動けるようになるには粘り強く子どもの考えを導き、試みることをくり返す関わりが必要 ・ 子どもたちの作品の出来ばえから子どもと保育者との信頼関係を考える ・ 泣いている子どもの涙を拭く子どもの姿から普段の保育者の優しい関わりを大切にしていることを想像する
	雑巾がけによる身体的発達への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全園児で取り組む雑巾がけによる筋力の強化 ・ 楽しく腕や脚の力をつける雑巾がけの取り組みの良さ ・ 雑巾がけを行う子どもの足の親指に注目して身体の動きの発達について理解する ・ 身体を動かす雑巾がけの活動 ・ 雑巾がけで足の親指や裏を使っている様子から講義での学びを再認識する
	園全体で取り組む雑巾がけの良さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手本となる子どもを見ることや回数を重ねることで雑巾がけが上達することへの理解 ・ 全園児が同じ活動をすることで刺激しあえる良さ ・ 幼児期の身体的な発達において身に付けることを大切に不足していることを補って次の発達につなげる保育を学ぶ
	雑巾がけから派生する周囲への注意力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑巾がけを通して子どもに注意点や「気をつけよう」という気持ちを高める ・ 雑巾がけを行うことでの運動の要素や周囲への注意力を向けられるようになる
	清掃の行為が楽しく習慣化されている背景にある保育者の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑巾がけや戸外遊びで嫌々ではなく元気に活動する様子から気づく保育者の工夫 ・ 雑巾がけの活動を開始して2～3ヶ月で身体の動かし方や重心の取り方を覚えたことへの興味
子どもの主体性を導く保育者の意図的な働きかけ	子どもと楽しさを共有することの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の楽しさを共感する関わりによる子どもの主体性の変化 ・ 子どもと楽しさを共有し遊びを促す保育者の関わり ・ 子どもとともに楽しむことの重要性の再認識
	子どもの主体性を生む保育者の効果的な関わりや声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの声を受け止めた遊びの展開を通じて生まれる子どもの主体性・積極性 ・ 保育者の様子から感じる子どもへの言葉かけの素晴らしさ ・ 子どもが意欲や思いを伝え合うなど主体的に活動に取り組む姿を通して保育者の援助の実際を知る ・ 保育者の任せる姿勢や意欲を引き出す働きかけが生む子どもの主体的に動く姿
	子どもの意欲を生む保育者の効果的な関わりや環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの楽しそうに夏祭りに取り組む姿と自ら挑戦して物を作る遊びの良さ ・ 夏祭りを再現することで子どもが意欲的に活動に取り組むことができることを学ぶ ・ できる範囲内を意識しつつ子どもの意欲が存分に出来る関わり方の良さ
	子どもと一緒に取り組む保育者の姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと一緒に考えて子どもが答えを見出すことで自信につながる対応の重要性を学ぶ ・ 子どもが意欲の受け止め、悩んでいる子どもと一緒に遊ぶことで安心感を与える保育者の姿 ・ 子どもがアイデアを採用し保育者と一緒に遊びを作り上げる ・ 子どもが楽しく活動できる背景にある保育者の応援や活動を一緒に楽しむ働きかけ ・ 遊びの共有、遊びが継続できるような考案や声かけ等の保育者の工夫 ・ 子どもが活動に客観的な関わりではなく一緒に参加する良さ
	子どもが楽しめることの背景にある保育者の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ リレーの盛り上がり様子からトラブルを止めるだけでなく子どもの楽しいことの実現化も保育者の役割と感じる ・ 子どもたちの楽しそうにしている様子や笑顔の背景にある保育者の工夫を考える
	子どもの声を発端とした遊びの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが経験や声を活かした遊びにおける子どもの活発さと質の高さ ・ 子どもが提案による遊びの展開
	2つの遊びをつなげる展開方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが作ったコーナーの遊びと電車ごっこをつなげる工夫 ・ 年少児の電車ごっこと年中・年長児のお店屋さんごっこをつなげる遊びの展開方法への驚き ・ 手作りの線路や駅が設置されていることで子どもが電車ごっこに加わりたくなる工夫の良さ
	子どもがじっくりと遊べるようにすることの大切さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもがじっくり遊べるよう尊重することの大切さ ・ 子どもが好きな場所に何度も行って楽しめるお店屋さんごっこの良さ
子どもの言動を尊重した支持的援助	保育者の活動全体を把握しつつ子どもの変化を見逃さない目配りやさり気ない気配り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者のクラスへの目配りによる子どもの状況を見逃さない援助 ・ 活動へ子どもをさりげなく誘う保育者の様子 ・ 子どもが魚を釣った満足感を得られるように声かけする保育者の様子 ・ 異年齢交流における子どもが自然な雰囲気や交流できるようにしている保育者の気配りや援助方法の学び ・ 夏祭りの係りの子どもが不在になった時の補完的な保育者の対応や遊びに参加しやすくなる声かけ等の学び ・ 子どもが気持ちの言語化や活動を楽しむことができるよう大きな声で感想を言う保育者の意図を知る
	子どもの能力や主体性を見極めた必要最小限の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが主体的に取り組む姿の背景にある保育者の支持的な姿勢への考察 ・ 子どもが自ら考えて主体的に遊ぶことへの認識とそれを可能にする保育者の最小限の援助への気づき ・ 子どもが意見を導き、最低限の提案によって子どもの「できた」を生み出す保育者の関わり ・ 保育者は子どもの意見を整理し、子どもの力を信じて解決を託す ・ 夏祭りのくじ引きの課題点を子どもと一緒に考え子どもが解決策に気づかせるよう援助しすぎない保育者の姿勢の重要性 ・ 子ども同士が関わりや意欲を持って遊べるように援助する保育者の姿

	<p>保育者の子どもの意見を導く問いかけと丁寧な返答</p> <p>保育者が子どもの意見を尊重することで生み出される新しい発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの答えを導く問いかけを意識的に行っていることへの学び ・朝の会における保育者の一方的な問いかけではない子どもの意見を促す問いかけ ・朝の会の場面における楽しそうに発言する子どもに対し丁寧に返答している保育者の姿 ・保育者の問いかけを発端とした子どもの意見を尊重した話し合いによる新しい発見の創出 ・朝の会で紐の長さをそろえるための良い方法を子どもとともに考え、意見を大切にする姿から学ぶ保育者の技術
保育者同士の連携の重要性	安心・安全な遊びやスムーズな活動を可能にする保育者同士の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者同士の連携や周囲への配慮による活動の持続性 ・保育者同士の役割の明確化が安心して遊ぶことや活動の連続性を可能にする ・保育者がお互いの様子を把握しあうことで活動のスムーズさや子どもが安全に遊ぶことができることを学ぶ ・保育士同士が自然に行っているコミュニケーションや連携 ・おう吐物に対して担当が中心となって他の保育者が消毒や補助に入る連携の様子からの学び
子ども同士のトラブルの解決に必要な保育者の技術	子どもたちが解決策を生み出せるように焦らず関わる保育者の技術	<ul style="list-style-type: none"> ・焦らずゆっくり解決へ導くことで子どもが納得して遊ぶことができる ・保育者の援助を通して子どもたちで決めることができたりレーの順番 ・走る順番を決める様子からの保育者の子どもが自分たちで解決できるように促す関わり方を学ぶ
	子どもの状況を見極め臨機応変に対応している保育者の柔軟性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況への臨機応変に対応する保育者の姿からの学び ・泣いている子どもが落ち着くまで抱きかかえ同時に遊びが中断しないように声かけを行う保育者の姿 ・子どもの状況に応じて意図的に競争に負ける保育者の姿からの学び ・保育者としての立ち位置の難しい場面における見守りか仲介かの見極めと声かけの技術
	トラブルの当事者だけでなく他の子どもの意見を活用した仲裁の技術	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の子どもの主張を聴き見守ることや他の子どもへの解決策の相談をする様子 ・子ども一人ひとりの言動への注目や周囲の子どもと意見を共有するなど子どもが主体的に活動できるような保育者の促し方 ・リレーで赤チームの1番を担当したい子ども2人に対する仲裁 ・当事者2人が意見を出し合えるように見守り、周囲の子どもへ解決策を問いかけ子ども自身自身が問題解決をした理想的な援助のプロセスのすこみ
	トラブルへの関わり方から解決後のケアまでの一連の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルの解決時の保育者の子どもを認める関わり方の工夫やケアの方法
公開保育における現場を客観視したことでの学生の学び	普段と異なる公開保育の状況下における子どもや保育者の自然な様子	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの大人が観察する中でも保たれる先生の話に対する子どもの集中力 ・普段と異なる環境下であっても子どもの緊張をほぐす保育者の関わり的重要性への再認識 ・多くの大人がいても周囲を意識せず自然体で活動している子どもと保育者 ・知らない人が観察していても子どもが自由に遊んでいる様子を見ることができた驚き ・大人の様子を気にしていた子どもが戸外遊びになると好きな遊具で楽しく遊ぶ変化の様子
	今までの実習体験との比較による園の現状認識	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と比較する着目点 ・実習園との比較による学びの深まり ・用意されたサンダルに着目したクラスから屋外への動線の他園との違い ・実習園と全く異なる園の雰囲気の新しさ ・教育実習と同様の年齢のクラスの観察 ・実習園以外の園の活動のねらい、保育環境を知れた良さ
	集中して客観視できる公開保育の良さ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保育者の個々の細かな動きや全体を集中して観察できる公開保育の良さ ・保育者の子どもへの声かけや接し方を間近で観察できる良い経験 ・実習とは異なり客観的に保育者や子どもを観察できる公開保育の良さ
	自分事として現状を捉える	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の意図を子どもの学びに活かす難しさ ・水が流れ続けることによる水のかけ合い等子ども同士のトラブルへの心配
	現状の認識に留まらない自身の実践とを結びつけた学び	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しさを増やし他の子どもにつなげる考えられた保育を意識すべきこととを感じる ・第三者の観点から保育を観察することで保育者の行為を自分に置き換えた学びができる ・自分の関わり方と照らし合わせ保育者の時間をかけて解決に導く関わり方を学ぶ ・最終的に子どもが決定していた姿を思い出し今後の自分の実践に活かそうと考える
	保育の実際と普段の学習とを結びつけた深い理解	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージでできなかった授業中に学んだ「子どもが主体的に遊べる環境」を公開保育を通して理解する ・疑問を抱いていた子どもの主体性を意識した活動へのヒントになる保育者の実践
	実践における指導案の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・保育場面を理解するための指導案の重要性 ・支援を必要とする子どもへの対応が書かれた指導案を踏まえトラブルのない実践が展開される素晴らしさ ・ねらいや子どもの動き、保育者の援助まで簡潔に詳しく書かれた指導案の書き方への学び
批判的な捉え方や姿勢	子どもの遊びや様子の観察に対する批判的な捉え方を通した立場をわきまえない批評	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット遊びの環境構成に対する中央部分の活用への提案 ・保育者のトラブル対応に対する一緒に考え提案する様子と納得していない子どもの様子 ・園庭の活動の伝わるものの少なさ ・ボールを使用した遊びが別の遊びをしている子どもにぶつかった ・遊具に的が設置されている子どもが遊んでいる様子が見られない
	どのように動いたらいいかわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように動いたらいいかわからない ・周囲の保育者を真似て行動する

性」の7つが示された。

「批判的な捉え方や姿勢」は、「子どもの遊びや様子の観察に対する批判的な捉え方を通した立場をわきまえない批評」、「どのように動いたらいいかわからない」の2つが示された。

公開保育の見学という、保育者や実習生として実際に関わる立場ではなく、外から客観的な視点を持ち、保育者の願いや意図が込められたねらいに基づき、保育の活動が展開される様子を目の当たりにしたことで、学生のこれまでの保育に対する捉え方から変化が起きた学生達の回答が多く示される結果となった。実習生としての保育活動への参加の場面では、目の前で起きている出来事に対してのある種の対応のみで精一杯になってしまい、気づくことが難しかった、保育者が周囲の変化や様子に常に気を配る姿や、保育者同士で細やかな連携を図るための情報の伝達や保育者の立ち位置・座り位置を含めた場所の移動、子どもの声を聞き、その伝えようとしていることを理解するために、かけている言葉や子どもとの体の距離などについて、客観的立場の他者として公開保育に参加することで、見ることができたと同時に気づくことができた様子が、学生の回答から示された。また、この経験を通して、自らの活動との差異、これまでの自身の子どもへの関わり、実習活動での課題まで振り返り、省察を深めた学生の回答も示された。

これらの結果は、「見る」という行為を通して、学生が学びを深めることが可能となる結果を示すものであり、客観的な立場での他者として見るという行為に集中し、その活動について理解を示すことにより学びが深められていくという過程を示すものであると考える。そこから更に、自らの体験へと重ねることでもう一つステップアップした形で更なる学びが深まる様子であるが、「見る」という行為だけでは全ての学生が同様の学びまで深めていくことは難しい様子もまた、示された。

2. 研究協議参加での学び

研究協議参加での学生の学びは、「子どもの主体性を考えた柔軟な関わりの重要性」、「研究協議を通して得られた今までにない新たな学びや気づき」、「保育者の発言からの自己の視点の省察」、「保育者

の深い洞察力への感心」、「実践の連続性への気づき」、「実践とねらいとの関連性に対する意識化」、「保育実践の奥深さ」、「今後保育者となる自分への糧」、「批判的な感想」の9の要素が示された。

これらの第一カテゴリーの下に示される第二カテゴリーは、それぞれ以下の通りであった(表2)。

「子どもの主体性を考えた柔軟な関わりの重要性」は、「子どもと一緒にやってともに作り上げていく保育者の姿勢とプロセスの重要性」、「子どもが主体となって能力が発揮できるよう考えられた援助方法」、「状況を見極め子どもにとって最適な関わりを実践する」の3つが示された。

「研究協議を通して得られた今までにない新たな学びや気づき」は、「保育者の情報共有・意見交換の場に身を置くことで得られる新鮮な学び」、「研究協議における意見や質問を述べる方法や気遣い」、「反省ではプラスのことを振り返っても良いと知る」、「研究協議における率直な意見交換や保育者の様々な考えからの学び」、「保育者の実践を振り返り意見を受容する力の必要性」、「研究協議を通して知った新しい知識」の6つが示された。

「保育者の発言からの自己の視点の省察」は、「研究協議への同席から生じた公開保育の内容の再吟味」、「研究協議における参加者の意見から保育者の洞察の深さと自身の力不足を感じる」、「研究協議における参加者の意見から自分の着眼点とを比較し保育者の視点を学ぶ」の3つが示された。

「保育者の深い洞察力への感心」は、「実践に対する保育者の複眼的な視点」、「保育者の洞察力と言語化する力への驚き」の2つが示された。

「実践の連続性への気づき」は、「公開保育に至るまでを推察し実践の連続性を認識する」、「子どもの成長への願いを踏まえた実践の積み重ねの重要性」、「保育者の実践を省察することの重要性」の3つが示された。

「実践とねらいとの関連性に対する意識化」は、「ねらいに基づいた環境構成の重要性への再認識」、「研究協議を通して公開保育だけではわからなかった点を理解する」、「研究協議を通して公開保育の実践のねらいや意図を深く理解する」の3つが示された。

「保育実践の奥深さ」は、「経験者であっても難しい実践と日々の試行錯誤の重要性」、「クラスや異年

表2 研究協議参加での学び

第一カテゴリー (9)	第二カテゴリー (29)	第三カテゴリー (112)
子どもの主体性を考えた柔軟な関わりの重要性	子どもと一緒にあってともに作り上げていく保育者の姿勢とプロセスの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「他者を楽しませたい気持ち」を出発点に子どもの想像力や思考力を向上させながらクラス独自の「夏祭り」を作り上げたプロセスへの感心 ・夏祭りのくじ引きの課題点を子どもに投げかけて一緒に改良したものを作っていく印象的な保育者の姿 ・子どもと保育者が一緒に遊びながら1つのことに集中して取り組むことの重要性
	子どもが主体となって能力が発揮できるよう考えられた援助方法	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育時の遊びに集中する子どもの姿から子どもの意欲を引き出す保育者の関わりの重要性を理解する ・保育者が試行錯誤している姿を意図的に子どもに見せている場面を通して考えさせられた子どもが主体的に活動に取り組める方法 ・子どもが多様な動きを経験できるようにするには興味やわく声かけや挑戦できるような援助の必要性 ・子どもと保育者の「より楽しく遊ぶ」話し合いを通して子どもの想像力が育つ
	状況を見極め子どもにとって最適な関わりを実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的に始まった遊びへの対応力と子どもの意見の実現させる保育者の力量への感心 ・要支援児のできることを見極める視点と任せる関わりの重要性 ・把握された個々の子どもの状況に基づいた声かけや援助 ・子どものことが深く考えられている保育者の行動に関する再認識 ・朝の会は子どもの状況を見極めて実施の有無を検討していることを理解する
研究協議を通して得られた今までにない新たな学びや気づき	保育者の情報共有・意見交換の場に身を置くことで得られる新鮮な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・所属園の実践の見つめ直しや実践の着想が得られる保育者同士の意見交換の新鮮さ ・1園の課題点の明確化・共有化を通じて実践のより良い方向性を検討していることを知る ・公開保育の実践者から保育の理由や今後に向けた改善点を直接聞ける機会 ・研究協議の参加者の質問内容から新たな考え方を発見する ・研究協議の参加者が述べる実践者を自分に置き換えた意見からの学び
	研究協議における意見や質問を述べる方法や気遣い	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は良かった点を述べた上で自分自身に置き換えた意見や実践のねらいの理由を質問する ・改良点や質問を述べる前に公開保育の感想を話しており質問の仕方を勉強した ・保育者の相手の気持ちを考えた言葉の選択による意見交換 ・子どもの最近の状況について共有した上で質問する形態の研究協議
	反省ではプラスのことを振り返っても良いと知る	<ul style="list-style-type: none"> ・反省はマイナス面だけでなくプラス面について発言してもいいと知る
	研究協議における率直な意見交換や保育者の様々な考えからの学び	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議の質問や考えはどれも参考になるものばかり ・研究協議は公開保育の園だけではなく他園の保育者の意見も聞ける機会 ・研究協議を通して実践者のねらいや観察者の意見を交換することで保育の質の高まりや気づき生まれる ・質問の中に自分が聞きたいと思う内容が多くある ・子どもの心情を捉えた改良点 ・子どもの話を楽しそうにしている保育者への親近感 ・他園の保育者の意見から様々な考えを聞き学ぶ
	保育者の実践を振り返り意見を受容する力の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者には実践直後の振り返りや意見を受容する力が必要 ・実践直後に活動を振り返り反省できる姿勢への驚き
	研究協議を通して知った新しい知識	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では学んでいない運動の順位 ・地域住民との適切な関係が理解や支援を生む
保育者の発言からの自己の視点の省察	研究協議への同席から生じた公開保育の内容の再吟味	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議を通して自分を公開保育時の実践者に置き換えて子どもの個性を活かした保育を考え難しさや面白さを感じる ・研究協議と指導案を照らし合わせて考えさせられた同年齢・異年齢、個人・集団などよりよい着眼点 ・保育者同士の協議に刺激を受け「継続しなかった遊び」の環境構成について自分なりに考察する ・研究協議の参加者の質問内容から考えさせられた朝の会を実施しないことへの疑問 ・研究協議の参加者の質問内容からの要支援児であったことへの気づきと特徴の捉え直し ・保育者の意見から自分を公開保育時の実践者に置き換え私なりの保育観を考える
	研究協議における参加者の意見から保育者の洞察の深さと自身の力不足を感じる	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の「私の考え」の発言を受け公開保育時に実践者を自分に置き換え考えながら観察すべきだった ・環境構成や子どもの動線等の意見交換から自身の観察する力の足りなさを感じる ・保育者の意見から自身の観察力の不足と着眼点や注意して見るべきことを学ぶ ・自分と保育者の観点や視点の違いから子どもに携わる経験の浅さを痛感する ・子どもの様子に注目しすぎた自身への反省と保育者の意見の内容から視野の広さと着眼点の多さを知る ・保育者と自分自身の着眼点を照らし合わせ視野の狭さ、経験や知識の浅さを実感する
	研究協議における参加者の意見から自分の着眼点とを比較し保育者の視点を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの事例の自分なりの分析を保育者の意見に照らし合わせ自分の考えの正しさを改善点を明確化する ・保育者の意見を聞いて公開保育時の保育者と自分の視点の相違を感じる ・子どもの姿を捉える自身と他者との視点を比較できる良さ ・保育者の意見から自分の着眼点と照らし合わせ考え方の重なりや相違を知る

保育者の深い洞察力への感心	実践に対する保育者の複眼的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開保育の実践者の振り返りから明らかになる子どもを把握する複数の着眼点 ・ 研究協議の参加者の質問内容から子どもの現状の観察だけでなく環境の再構成を考える保育者の複眼的な視点を学ぶ ・ 研究協議の参加者の意見から1つの場面を様々な角度から捉え配慮や工夫を考えることの重要性を学ぶ
	保育者の洞察力と言語化する力への驚き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の意見から子どもの観察の際の重視している着眼点を知って驚く ・ 短時間でも子ども一人ひとりを細かく見ている保育者の視点への驚き ・ 研究協議での多くの意見と公開保育時のメモの量との関連に気づく ・ 同じ保育現場を見ているも保育者の気づきや考察、子どもを捉える視点や保育の観点の奥深さや面白さを感じる ・ 保育者の質問から自分にはない気づきや疑問点を知る ・ 保育者の質問から活動観察の視点の深さを知る ・ 参考意見や指摘、自園へ活かそうとする意見等から観察していた保育者の着眼点を学ぶ
実践の連続性への気づき	公開保育に至るまでを推察し実践の連続性を認識する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開保育時の子どものアイデアは今まで問題と向きあってきた成果 ・ 公開保育時の子どもの状況はその日だけのことではなく毎日の積み重ねと丁寧な関わりが重要であると学ぶ ・ 普段の子どもの様子の話題から遊び方と子どもの性格との関連性を理解する ・ 研究協議を通じて子どもの今までの成長を知る ・ 公開保育に至るまでの子どもの体験や思いを受け止め研究を通し保育者は常に学んでいることを知る
	子どもの成長への願いを踏まえた実践の積み重ねの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの成長を願った毎日の保育の積み重ねの大切さ ・ 保育者の願いを子どもの気持ちや行動に繋げるためには保育の積み重ねが必要 ・ 雑巾がけを通した運動は短期間で習慣化されている
	保育者の実践を省察することの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は常に試行錯誤し、よりよい保育を見出す ・ 計画・実践・評価・反省を日々繰り返すことの重要性の再認識
実践とねらいとの関連性に対する意識化	ねらいに基づいた環境構成の重要性への再認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外遊びにおける子どもの安全性を考慮し楽しめる環境の工夫への再認識 ・ 配慮に基づき構成される環境の重要性への再認識
	研究協議を通して公開保育だけではわからなかった点を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協議を通して解消される公開保育時の保育者の実践に関する疑問 ・ 研究協議を通して公開保育だけでは気づけなかった保育者の配慮、遊びの意図や工夫への気づき
	研究協議を通して公開保育の実践のねらいや意図を深く理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外遊びそれぞれの目標やねらいを意識した保育者の関わりを知る ・ 実践者の2つの遊びを繋げようと考えていたことへの驚きから気づいた遊びの展開の可能性を考える必要性 ・ 研究協議の参加者に対する回答から公開保育時の実践者の意図や考えを理解する ・ 年少児の遊びの促しや年中・年長児の主体的に遊ぶきっかけ作りなどのねらいと公開保育の実践とをリンクさせて理解する ・ 研究協議を通じて実践の根拠や意図をより深く知る
保育実践の奥深さ	経験者であっても難しい実践と日々の試行錯誤の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベテランでも予測通りに遊びが展開しないことや試行錯誤することの重要性を知る
	クラスや異年齢の集団づくりの大変さ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数クラスならではの大変さ ・ 異年齢の集団をリードするキーとなる子どもを見出すことの悩みから雰囲気づくりや援助を考える大変さを理解する
	正解のない奥深い保育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関わり方や視点の相違点と子どもを第一に考えている共通点から保育は深くて正解がないと捉える ・ 水遊びの「水」を複数の観点から捉え環境構成の難しさを感じる ・ 水遊びで水が出たままであったことに対する保育者の評価への共感
	保育者一人ひとりの異なる保育観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道内の多くの保育者による研究協議を通して知った園の方針によって保育の方法や考え方の違い ・ 保育者一人ひとり異なる保育観から見直した子どもへの関わり方や着眼点 ・ 公開保育に対する意見や感想から感じる保育者の視点の違い ・ 各クラス担任のクラスの捉え方や願い等を知ることで新しい保育観を学ぶ ・ 園の保育者の意見からそれぞれの保育や自分の保育観を学ぶ機会
	研究協議の参加者が述べる実践者を自分に置き換えた意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「私ならこうする」という自分に置き換えた実践に関する意見 ・ 「私ならこうする」という自分に置き換えた実践に関する意見からの深い学び ・ 「私ならこうする」という自分に置き換えた実践に関する意見を出し合いより良い保育のための協議を学ぶ
子どもとの関わりに活かしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の考えを保育アルバイトや次回の実習に生かそうと思う ・ 年少児の活動における年中・年長児の活動とのつなげ方を学ぶ ・ 協議を通じて今後の活動に参考にできることを記録する 	

今後保育者となる自分への糧	これからの自分に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・実践の課題点から遊びの準備から展開までのプロセスなど今後保育者として考えるべきことと感じる ・研究協議を通じこれから保育する上で意識すべき点や工夫点を学ぶ ・公開保育と研究協議を通じこれから働く上で学ぶ必要があることを再考する機会 ・子ども・保育者・環境など場面を構成する要素を細かく捉える視点の必要性 ・将来自分の園に置き換えて考えられるようにならなければと実感する
	将来保育者として自分が実践したいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・登園前からの子どもを意識し意欲を低下させない留意した環境設定を目指す ・強く感じた保育者として成長したい気持ち ・これから保育に携わる者として「気づき」を大切にしたい ・保育者の個別と全体を把握する技術を身につけたい ・改めて朝の会の運営や見通しを持った関わりを実践したい ・視点の未熟さを感じつつ今後保育者のような視点を得たい ・保育者の視点や考えを知り自分自身の観察や考察する力や文章化するスキルを習得したい
批判的な感想	公開保育と研究協議を通じての批判的な感想	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議で意見が出ず司会者が困っているように感じる ・司会者が拳手を促す必要性 ・保育者の「子どもの盛り上がり」に関する疑問 ・大学の講義と同様で聞いて良かったと思える話はない ・実践における配慮不足の指摘

齢の集団づくりの大変さ」、「正解のない奥深い保育」、「保育者一人ひとりの異なる保育観」、「研究協議の参加者が述べる実践者を自分に置き換えた意見」の5つが示された。

「今後保育者となる自分への糧」は、「子どもとの関わりに活かしたいこと」、「これからの自分に必要なこと」、「将来保育者として自分が実践したいこと」の3つが示された。

「批判的な感想」は、「公開保育と研究協議を通じての批判的な感想」の1つが示された。

研究協議への参加を通して、保育者の多様な意見を「聞く」ことで、保育所の視点や意図、配慮、保育の連続性について、理解をすることができた学生の様子が示された。そして、何よりも公開保育の場面では、自らの立場に置き換えて、保育の場面を理解することが難しかった学生が、研究協議において他者の理解と保育への評価を多様な視点から「聞く」ことを通して、保育者の立場であれば、自分はどう動くことができるのか、どのように考えて行動することができるか、また、保育者として自分は同様の視点を持ち、考えながら保育に取り組むことが可能なのかという、振り返りを行う学生の様子も回答より示された。

つまり、公開保育の場面では、子どもにとっての保育活動の意義を理解した、保育の連続性に気づききれていない学生が多く、学びは深まっているが十分ではない様子が示されており、研究協議に参加することで、「見る」ことを通してだけでは深まらな

かった学びを、協議を通して他者の視点を「聞く」ことで保育を捉え直しを行い、自ら振り返ることで、学びが進められていく様子が示された。

IV まとめ

本研究の結果から、学生達の学びに対する理解の変化が示された。公開保育や研究協議の参加を行う前の課題として、保育活動の場面を一場面的に捉えてしまうことが多く、現在の子どもの姿を踏まえた計画作成の必要性と、振り返りの視点においても、どのように明日からの子どもの活動へと繋げていくかという視点が不足していたが、参加を通して、これらの課題について気づく機会、学びの機会となったことが示された。

学生の学びの様子をみると、公開保育を「見る」学びとして深めることができた学生、公開保育を「見る」として研究協議で他者の視点を介した発言を「聞く」ことで、学びとして深めることができた学生、公開保育と研究協議の参加では、勉強になったと考えても、自らの学びとしての深まりを捉えきれていない学生がいたことが示された。

また、批判的視点にて、公開保育と研究協議への回答を示した学生もいた。その他、着眼点は大きく間違えているわけではないが、問題を探そうとする評価的な視点で全てを見ようとしており、その場面をどのような意図で動かそうとしているか判断がつけられない学生もいた。

これらの学生について、その日常的な状況を見ると、実習内容や実習評価において大きな課題を抱える学生であり、その取り組みの姿勢や態度、実習での理解等に関しても、何らかの形で指摘や指導を受けていた。参加にあたって、事前にその意義と学習の目的について説明を行っていたが、他学生と同質な形で、学習者としての意義を捉えることができていることがその理由であると考えられる。このような学生に対して、解釈の異なりや学びに対する着眼点の異なりに関して、学習の意図を認識できるような指導が必要であったと考える。

学生の学びの構造を理解し、段階的な学習の仕組みを作り、学生一人ひとりの状況を把握した、振り返りの場づくりが、課題としていえる。学習を通して、学生全体への均質な学びの効果を期待した場合、現在の取り組み方では、本来的な学習の目的が果たされず、モデリング学習としての効果もあまり見られない結果が示された。こうした背景には、これらの学生に対して学習の意義の伝達が十分とはいえないこと、これらの学生が抱えている課題について、学生自身がわかりやすく自ら認識できるような形で、言語的に示しきれていないことがあると考えられる。指導を行う上で、全体的な取り組みだけではなく、個別的な支援の充実をそれぞれの学習場面において図り、振り返りについても同様の体制を今後は行っていきたいと考える。

文献

- 1) 文部科学省 (2008), 「幼稚園教育要領」, フレーベル館
- 2) Brown, J., Isaacs, D., & World Café Community (2005), *The World Café: Shaping our futures through conversations that matter*, Berrett-Koehler Publ. (=香取一昭・川口大輔 (2007), 『World café-カフェの会話が未来を創る』, ヒューマンバリュー.)
- 3) Owen, H. (1997), *Open Space Technology: A User's Guide*, Berrett-Koehler Publ. (=ヒューマンバリュー (2007), 『オープン・スペース・テクノロジー-5人から1000人が輪になって考えるファシリテーション-』, ヒューマンバリュー.)
- 4) Bohm, D. (2004), *On Dialogue* (2nd ed.), Routledge. (=金井真弓 (2007), 『ダイアローグ対立から共生へ, 議論から対話へ』, 英治出版.)
- 5) 上村裕樹・坂本大輔・阿部好恵 (2016), 「問題解決型学習における課題と評価方法の検討」, 社会福祉科学研究, 5, 145-151.
- 6) 小川友恵・山本弥栄子・柴本枝美 (2009), 「教育実習指導のあり方 (1): 教育実習 I の結果をふまえて」, 大阪健康福祉大学紀要, 8, 143-157.
- 7) 小山優子 (2014), 「保育者の力量形成を促すカリキュラムの検討 (I): 学生の部分指導計画立案の習得過程から」, 島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要, 52, 31-40.
- 8) 徳本達夫・井出佑希乃・沖野妃慧・藤田実希・藤本彩花・山本恵子 (2016), 「保育学生の主体的学習考: 質の高い学びを生む諸要素とその具体化」, 広島文教女子大学教職センター年報, 4, 75-88.
- 9) 中藤広美・鷺野彰子 (2015), 「実習前教育における学生教育の課題と方法: 環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて」, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 24-1, 17-31.
- 10) 秋田喜代美・丸野俊一・藤江康彦・坂本敦史・的場正美・三宅なほみ (2008), 教師の学習へのアプローチ: レッスンスタディ研究, 自主シンポジウムE2, 日本教育心理学会総会発表論文集, 50, 88-89.
- 11) 張明涛 (2014), モデリング学習とコンピテンシーの習得, 経営行動科学学会年次大会: 発表論文集, 17, 280-285.
- 12) 鍋田真一・横山航・山本洗希・細澤あゆみ・渋谷良太・八木田知弘・小田奈緒・湯瀬裕昭・青山知靖・鈴木直義 (2011), フィジカル・アセスメントスキル習得における学習者支援へのモデリング導入の提案, 情報教育シンポジウム2011論文集, 161-168.